

第二回委員会

10

- 一、日時 七月三十日午後七時 一、会場 海員組合戸加支部講堂
一、出席 久保田、伊藤、飯島、増原、土田、叶、宇都宮、坪田、黒木、石見、白木 (記録、奥村)
一、開會 議長 久保田 長一郎
同志會、鐵聯は缺席ではあるが伊藤書記長より完全に連絡して貰ふこととして開議する。
伊藤卯四郎
一般報告

永らく會議を開かなかつたが、本會議加盟団体は互に同一組合、同一世帯にあると同様で圓滿にして緊密なる連絡が保たれてゐて會議を開いた同様に任事は進められてゐるが組合會議本部も二ヶ月に一回位の割合で開議されてゐる様であるから將來は定期的に開議して貰ふことにはと思ふ。左に重要な件に就いて報告する。

△製鐵官民合同反對の件

正式會議を開かなかつたが本會議加盟の同志會鐵聯の兩組合が全力的に之の件を戦つてゐたので會議は之に應援、協力した。特に組合會議本部關係は芝協調會館に會合して、在京、對政府運動を効果的に展開させるために協力し、法案は遂に成立して、主義上の争ひには破れたが、從業員の生活上の實際問題に關しては將に労働階級の記録的大勝を収め得た。

△尼ヶ崎汽船争議の件

之も會議は開かなかつたが會議決議と同様な緊密なる統制を以て九州地方關係の海員組合と協力一体となつて全力を盡して戦ひ大勝利を博して解決した。

△西向大郎君逝去の件

本會議のみならず九州の全戦線に亘つて献身的に努力してゐた西君の急逝に關し本會議は痛惜に堪へず別に正式會議は開かなかつたが本會議の名を以て弔意する方を講じた。

△今岡與市君逝去の件

本會議加盟団体日本製鐵労働組合聯合會長であつた今岡君に就いて會議加盟全團體の熱烈な協力が依つて國際労働會議労働間に當選せしめ得たが渡歐途上に急逝し痛恨の限りであつた。正式會議は開かなかつたが之に對し本會議は哀惜の意を表した。

△勞資懇談會の件

本年四月三日、全國に對して我國産業の中心地帯である福岡縣に於て協調會主催の勞資懇談會が開催された。個人の資格に於て總同盟、官勞同志會、海員組合、事業主六名、縣知事、工場課長、特高課長、吉田協調會常務理事、町田労働課長が出席した。事業主側は懇談會を危惧し危険視してゐるが、その結果は却つて事業主側からの會合を持望したいと云ふ強い希望の意見があつて本月二十日再び福岡教育會館に於て第二回勞資懇談會が開かれ、事業主側は在來の労働組合危険視の誤想を捨て、之の會合に興味と關心を寄せ、豫想に三倍して三十名余出席し、組合側からは總同盟、官勞同志會、鐵聯、海員組合、港灣聯盟より、主催者側より吉田協調會常務理事、町田労働課長、教務課長、縣廳より知事、警察部長、特高課長などが會合して三時間餘に亘り、日本の産業の發展平和に就いて懇談し將來は之の種の會合で勞資關係の實際問題を解決させ得るようになせたいと言ふ力強い希望を與へ之の會合の永續が熱烈に希望されてゐた。九州で最初に開いた之の會合の成功が模範となつて大阪や、關東の川口にも之の種の會合が開かれ、協調會としても、その期待にそむかず、ある種の目的が達せられてゐると言つて吉田常務理事などから感謝されてゐる。

△東京小石川兵器廠小倉移轉の件

小石川兵器廠從業員が本年中に六、七百名小倉へ移轉することとなり、既に第一回は移轉を終へ第二回は今秋來ることになつてゐるので小倉の官勞の組合員は三、四倍化する次第である。之等の移住者の住宅に關し縣市當局に交渉した。近く移住者は連判を以て縣市へ陳情することにしてゐるが之等移住者の住宅建設は殆ど決定的になつてゐる。

△製鐵所從業員單一労働組合結成の件

日本製鐵株式會社成立を控へて同志會鐵聯の兩組合は從業員の生活權を確保することを決意して夫々の正式機關を経て無條件合同を決定し、從來未組織であつた從業員が製鐵官民合同反對運動で統制ある組織的大衆運動の實力に確信を得て單一労働組合結成の澎湃たる要求が具體化して之と合體しその第一回結成準備委員會が去る七月二十八日に開